

MACF 礼拝説教要旨

2024年3月3日

「神は世を愛された」

ヨハネによる福音書 3章

16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、

御子によって世が救われるためである。

18 御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。

神の独り子の名を信じていないからである。

19 光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。

それが、もう裁きになっている。

20 悪を行う者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、

光の方に来ないからである。

21 しかし、真理を行う者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされた

ということが、明らかになるために。」

* * * *

聖書の中で最も有名な箇所の一つだと思いますが、今朝はこの箇所を心に留めたいと思います。

1) 神は世を愛された

愛という言葉はいろいろな理解が可能ですが、ここでは神の愛で包み「あなた本当に大切な存在ですよ」と迫る温かい心です。

神様は私たち一人一人に対して「あなたは大切な存在ですよ」と迫っておられるのです。無視したり、疎外したりすることのない愛です。

つまり、私たちが人生においてどんなに孤独を感じているとしても神様は常に

「あなたは大切な存在ですよ」と迫っておられるということであり、大切だからこそ「守り・導き・支え・助けようと」手を伸ばしてくださっています。

2) ひとり子である御子を与えるほどに

ここに神様の愛の深さが描かれています。

わたしたち世に属している存在に対して、神様は愛を示し御子イエス様を与えてくださったというのです。そのいのちをまるごと差し出して、私たちの祝福のためにすべてを提供してくださいました。

その究極の形は「十字架による罪の宥め・罪の赦し」です。

ヨハネは第一の手紙の中でこう書きました

ヨハネの手紙第一 4章

7 愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

9 神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。

10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

3)それはひとり子を信頼することで永遠のいのちを付与するため

神が私たちを愛してくれているということは大きな出来事ですが、これを他人事として見ることは可能です。

自分は別に神に愛されなくても大丈夫と言い聞かせながら歩むことは不可能ではありません。

でも、この愛を知ること、この愛を味わいつつ生きること、これを否定しながら

生きることではその表情も生き方も変わると思います。

神様の祝福は終わることのないほど深いものです。

イエス様への信頼、イエス様の側に心に向け、イエス様の言葉や約束を信頼し

受け止めながら生きることの中に、それまでとは違う祝福があふれてきます。

4)ひとり子に愛されているということの意味深さ

イエス様を通して神様の愛を深く味わうことができると、それはほぼ自然に

自分への愛の深さに代わり、同時に他の人への思いやりに繋がっていきます。

神様にされていることを深く知れば知るほど、自分が生かされていることへの喜びは深まりますが、同時

に、他の存在、他のいのちあるもの、他の人たちに対する愛も

深まってきます。

ヨハネ第一の手紙には「互いに愛し合いましょう」とありました。

それは神様に愛されているなら、当然のように心に広がってくる思いなのです。

Youtube での説教映像はこちらです。

<https://youtu.be/4qAaXtSbGbs>